

第2期長洲町「まち・ひと・しごと創生」

# 総合戦略

( 令和2(2020)年度 ～ 令和6(2024)年度 )

令和2年3月

熊本県 長洲町

## 目 次

I	第2期長洲町「まち・ひと・しごと創生」総合戦略策定にあたって	1
II	第2期町総合戦略の基本的な考え方	5
III	基本理念及び総合戦略の視点	9
IV	施策実施における基本方針	11
V	基本目標	12
VI	第2期町総合戦略の具体的な取組み	
1.	しごとをつくり、安心して働けるようにする	13
2.	町とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる	15
3.	安心して、結婚、出産、子育てができ、魅力ある教育を受けられるようにする	17
4.	安全・安心に暮らすことができる、魅力的なまちをつくる	18
5.	横断的目標：多様な人材の活用を推進	20
VII	第2期町総合戦略の実現に向けて	22

# I 第2期長洲町「まち・ひと・しごと創生」総合戦略策定にあたって

## 1 策定の趣旨

長洲町では、平成27年10月に長洲町人口ビジョン及び第1期となる長洲町「まち・ひと・しごと創生」総合戦略（以下「町総合戦略」という。）を策定し、少子高齢社会における人口減少問題に対して、長洲町が持つ特性・魅力・地域資源を活かしながら地方創生の推進に取り組んできました。

しかしながら、全国的に地方から都市への人口集中は依然として継続し、地方と都市との格差が拡大するなか、地域の持続可能性が喪失しており、長洲町において、少子高齢社会に対する課題解決策や人口の流出に歯止めをかけるべく新たな施策が必要とされています。

国が掲げた第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略のもと、長洲町では第1期における基本目標及び施策を維持しつつ、人口・経済・地域社会の課題に一体的に取り組むとともに、“ここに永く住みたい”と思われるような、持続可能なまちづくりを目指すべく、第2期町総合戦略を策定します。

## 2 計画の期間

第2期町総合戦略の期間は、令和2年度（2020年度）から令和6年度（2024年度）までの5カ年とします。

## 3 町総合戦略と他計画との関係

町総合戦略で取り組む施策は、町の各種計画の取組みとの整合を図りながら、地方創生の観点から人口減少・活力ある地域社会の実現に向けて効率的かつ効果的に推進します。

また、策定を予定している「長洲町国土強靱化地域計画」との整合性も図ります。

## 4 第1期町総合戦略の検証

第2期町総合戦略を策定するにあたり、第1期における取組みについて、次の通り検証を行いました。

基本目標1「しごとをつくり、夢を持って働けるまち」
【数値目標】
町内企業における新規雇用者数 750人（H27～H31）を目指す
【結果】
538人 ❖ 毎年度実施の企業動向調査より

▶K P I 達成状況（全 13 項目）

達成レベル	達成数
達成（数値・内容ともに達成）	4
おおむね達成（数値は達成していないが、内容は達成に値する）	5
未達成（数値・内容ともに未達成）	4

産官学等の連携協定や、それに伴う 6 次産業化に取り組む企業の育成など民間企業との連携事業に積極的に取り組みました。農水産物の商品化の実現に向け着手しており、第 2 期における新たな取組みが期待できます。

さらに、伝統産業「金魚」の再生として、待望の新品種「ながす羽衣琉金」が誕生しました。この誕生をきっかけに、“ながす金魚”を文化・産業・観光など多分野に渡り全国に発信する機会を通じて、地域の活性化につながるよう一層ブランド化に向けた取組みを推進します。

また、第 1 期の 5 年間に於いて、町内における主な企業の新規雇用者数は目標まで達しておりませんが、“長洲町＝働く場のある町”として、今後は町内企業や町商工会との連携をより強固にし、町内外の若者等に町内企業の魅力を働きかけます。

基本目標 2 「ひとを呼び込み、魅力溢れる活力あるまち」			
【数値目標】			
平成 31 年度における人口社会減を現状の 50%以下に抑える			
【結果】			
社会減⇒社会増へ転換			
平成 27 年度	転入 627 人	転出 662 人	社会増減△35 人
平成 28 年度	転入 551 人	転出 675 人	社会増減△124 人
平成 29 年度	転入 693 人	転出 585 人	社会増減 108 人
平成 30 年度	転入 804 人	転出 647 人	社会増減 157 人

▶K P I 達成状況（全 6 項目）

達成レベル	達成数
達成（数値・内容ともに達成）	5
おおむね達成（数値は達成していないが、内容は達成に値する）	1
未達成（数値・内容ともに未達成）	0

P F I 事業による地域優良賃貸住宅の完成などにより、若者や子育て世帯の転入につなげることができたことが、結果からもうかがえます。その他、町外からも魅力を感じて足を運んでもらえるような各種観光イベント等により、人を呼び込むきっかけづくりに取り組みました。

第 1 期による効果を持続し、これからの第 2 期における長洲町の魅力づくり・魅力発信の取組みが期待されます。

基本目標3「夢と希望を持って、結婚、出産、子育て、教育ができるまち」	
【数値目標】 平成31年度の出生率1.60を目指す	
【結果】 厚生労働省による人口動態統計特殊出生率の公表予定は令和2年3月となっており、合計特殊出生率についての公表については未確定のため、年間出生数の推移にて検証する。	
平成27年度	137人
平成28年度	123人
平成29年度	124人
平成30年度	123人
平成27年度は130人を超えており、その後、横ばい状態で推移している。	

▶KPI達成状況（全10項目）

達成レベル	達成数
達成（数値・内容ともに達成）	2
おおむね達成（数値は達成していないが、内容は達成に値する）	4
未達成（数値・内容ともに未達成）	4

子育て世代総合支援センター「はぐくみ館」の整備により、子育てや家庭における悩み・不安の相談窓口がより身近な存在になりました。また、保健センターなどとの連携も密になることで、長洲町に住む子どもたちを見守る体制が整備されました。

基本目標4「安全・安心に暮らせる、快適なまち」	
【数値目標】 町民アンケートにおける町民が「住みやすい」と答えた割合 76.9%（平成27年度）⇒80%（平成31年度）	
【結果】 80% ❖令和元年8月実施の町民アンケートより集計	

▶KPI達成状況（全18項目）

達成レベル	達成数
達成（数値・内容ともに達成）	12
おおむね達成（数値は達成していないが、内容は達成に値する）	5
未達成（数値・内容ともに未達成）	1

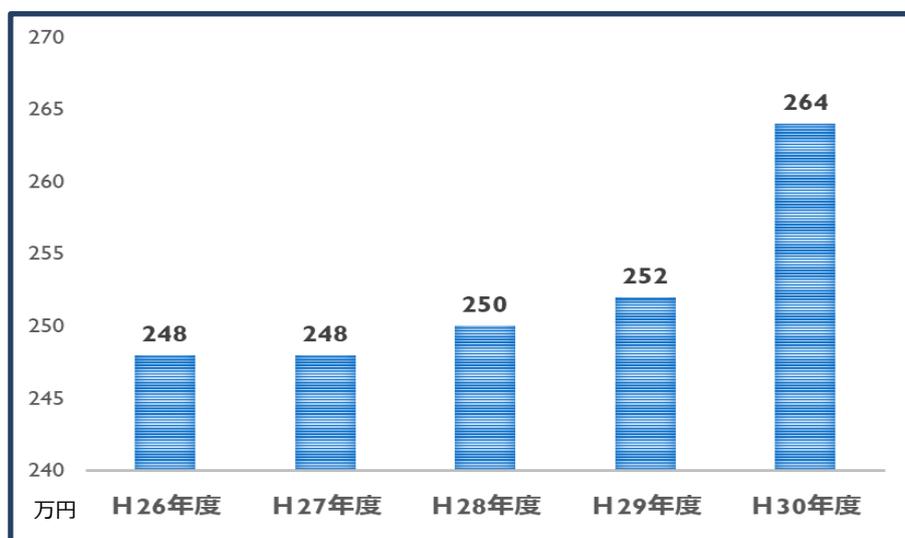
基本目標4では、宅地開発や交通の利便性向上、高齢者・障がい者がいきいきと生活できる健康なまちづくり、さらには自治体間の連携推進など多岐に渡る施策を盛り込んで各種事業に取り組みました。快適な生活の実現として、町内における「きんぎょタクシー（乗り合いタクシー）」の利用者数は年々増加傾向にあり、特に高齢者にとって生活に欠かせない存在となっています。運転免許返納者に対する無料乗車券配布の取組みなど、住民の安全・安心を守り、快適な暮らしを続けられるよう努めていきます。

また、高齢者が生きがいをもって活躍し、健康で元気な生活を過ごすために、

介護予防拠点施設等における介護予防事業を盛んに実施したことにより、高齢化率が高くなる中、介護認定率はK P I 目標値より低い数値という結果となりました。

さらには、ふるさとづくりのための取組みの一つとして、ふるさと納税の推進に積極的に取り組み、目標額を上回る寄附額を集め、“長洲町”を全国に知ってもらう機会を作り出すことができました。

下のグラフは、平成 26 年度から平成 30 年度までの長洲町の平均所得の推移を表したものです。第 1 期町総合戦略を策定した平成 27 年度から平均所得額が増加しています。長洲町の地域経済が少しずつ活性化していることが推測されます。



●総務省の資料「市町村税課税状況等の調」をもとに平均所得を算出。

## Ⅱ 第2期町総合戦略の基本的な考え方

### 1 人口減少への適応

長洲町の人口は、長洲町人口ビジョンでも示したとおり、国勢調査によると1985年(S60)の18,126人をピークに減少しており、2015年(H27)では、15,889人となっています。

人口減少は、日々の生活においては実感しづらく、近い将来における急速な人口減少によって、本町経済の規模縮小や生活水準の低下を招き、町の持続性を失う可能性があります。

また、人口の減少と高齢化の進行によって「働き手」の減少が生じ、人材不足や消費市場の低迷を生み出し、様々な社会的・経済的な課題が生じてきます。

このような状況が継続すると、人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させるという負のスパイラルに陥ることになります。

今後もこのような負のスパイラルに陥ることなく、「人口減少に適応」し、本町地域経済の創生を成し遂げるために、各種団体、事業者、町民の皆さんとともに、危機感と問題意識を共有しながら、人口、経済、地域社会の課題に一体的かつ持続的に取り組んでいく必要があります。

### 2 多様なアプローチによる地方創生

これまでの地方創生は、「まち・ひと・しごと」の好循環を実現するために、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立し、その好循環が「まち」を支えるという「しごと」を起点とした戦略でした。

しかし、第2期においては、「ひと」を呼び込み地域での交流を深める中で「しごと」を起こしていく「ひと」起点のアプローチや、地域の資源を活かし「まち」の魅力を高めて「ひと」を呼び込むという「まち」起点のアプローチといった、多様なアプローチにより地方創生の実現を図っていきます。

### 3 活力ある地域社会へ

町民一人一人が地域において、家族や友人、隣人等との交流の中で、豊かさと生活の充実感を享受できるよう、暮らしやすさを追求し施策を実施しなければなりません。

特に、若い世代の「働き手」が経済成長の原動力になるため、高校卒業後の大学入学や就職等のための大都市圏等への流出を抑制し、安心して働くことができる環境を整備し、町内の雇用環境等を整え、外部から若い世代を呼び込みます。

また、若い世代が安心して働き、希望通りの出会いや結婚・出産・子育てができるよう、安全・安心で快適な生活ができる環境を実現していくと同時に、高齢者層の健康長寿化が人口減少の抑制に直接つながることから、2025年問題を見据えた介護、医療等の社会的負担の軽減対策と、働く意欲のあるシニア世代の活躍の場の創出により、活力ある地域社会の実現を目指します。

## 4 新しい時代の流れを力に

### (1) 「Society 5.0」(※1)の実現に向けた技術の活用

Society 5.0の実現に向けた技術(以下「未来技術」という。)は、自動化により人手不足を解消することができるとともに、地理的・時間的制約を克服することが可能となります。そして、高齢者も含め、利便性の高い生活を実現し、地域コミュニティの活力を高めることができる未来技術は、まち・ひと・しごとのあらゆる分野において、住民の生活の利便性と満足度を高める上で有効であります。

地域の魅力を一層向上させることができるため、未来技術の導入を進めることが重要であることから、多様な価値観を認める社会づくりに向け未来技術の活用について推進します。

### (2) 「SDGs」(※2)を原動力とした地方創生

持続可能な開発目標(SDGs)は、全ての関係者の役割を重視し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境を巡る広範な課題解決に統合的に取り組むものであります。

持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて取組みを推進するにあたって、SDGsの理念に沿って進めることにより、政策全体の最適化や地域課題解決の加速化という相乗効果が期待でき、地方創生の取組みの一層の充実・深化につなげることができるため、SDGsを原動力とした地方創生を推進します。

### (3) 官民連携によるまちづくり

複雑・多様化する住民ニーズや複合化する地域課題の解決に向けては、その多くが行政のみによって対応できるものではなく、民間の参画が重要となります。

その際、民間による経済活動が、行政が進めるまちづくりの方向性と一致するよう、行政がビジョンを明示しつつ住民がまちづくりに積極的かつ自主的に参画できるような環境を整備する必要があります。

第2期町総合戦略では、政策効果をより高めるため、民間を含めた多様な連携協働体制を積極的に活用し、地域課題を解決することで、地方創生を実現します。

### (4) 「関係人口」の創出・拡大

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人をいいます。

「関係人口」は、地域ごと、人材ごとに多様な形態がありますが、町外者に対し、「関係人口」として、地域と継続的なつながりを持つ機会・きっかけを提供し、「関係人口」が地域づくりに貢献する存在として認識されるよう努めるとともに、地域住民とのより深い関わりを継続的に築く仕組みを構築します。



出典：総務省 関係人口のイメージ図

※1 Society 5.0とは、日本が提唱する未来社会のコンセプトで、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな未来社会を言う。

※2 SDGs（エスディージーズ：英語 Sustainable Development Goals）とは、持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲット（達成基準）からなる国連の開発目標であり具体的な行動指針を言う。

## 5 長洲町の強みを活かした総合戦略

### ○工業都市として発展

長洲町は、昭和39年に新産業都市建設促進法による新産業都市の指定を受け、昭和45年、有明海の臨海部を埋め立てた工業用地に造船・アルミサッシ製造を中心とした企業が進出し、工業都市としての歩みを進め、熊本県下でも有数の製造品出荷額を誇る町です。

### ○豊かな地域資源

古くから有明海を漁場とした魚やアサリ貝など貝類の沿岸漁業や海苔などの養殖業をはじめ、内陸部に広がる水田地帯での稲作や麦作、近年では、ビニールハウスを中心としたトマトなどの園芸農業が営まれ、一次産業も盛んな町です。

また、長洲町は、奈良県大和郡山市、愛知県弥富市と並んで、全国でも有数の金魚の生産地として広く知られており、町内には、金魚をシンボルとした「金魚と鯉の郷広場」や「金魚の館」など、金魚に関連する施設を整備し、「ながす金魚」は、全国に誇れる長洲ブランドとなっています。

### ○恵まれた生活環境

地理的には、有明海に面し、熊本県の北西部に位置する、1年を通して雨が

少なく、年の平均気温も 17℃前後と温暖な気候に恵まれ、冬季の降雪もほとんど見られない温かい地域で、町の面積は 19.44 k m<sup>2</sup>の小さな町です。

また、南北に J R 九州鹿児島本線が走り、J R 長洲駅から福岡都市圏まで約 80 分、熊本都市圏まで約 30 分、有明海を挟んで長洲港と長崎県雲仙市の多比良港を 45 分で結ぶ有明フェリーが運航しており、非常に交通の利便性に恵まれた町となっています。

令和元年 5 月に開通した一般道路 389 号の開通により、まちなかの交通量の緩和が図られるとともに交通アクセスが向上しました。また、平成 27 年 4 月に都市計画決定を受けた有明海沿岸道路Ⅱ期の整備について、令和元年度に地質調査が実施されたことから、将来的には県をまたぐ広域観光ルートの形成が期待され、さらに、都市計画道路「赤田・上沖洲線」の整備が進められることで、利便性の向上が期待されます。

生活環境に目を向けますと、生活する上で重要となる上下水道の整備において、町内全域における普及率は、上水道 98.8% (平成 30 年度末)、下水道 96.1% (平成 30 年度末) となっています。

このように、交通の利便性や県下でも上位の上下水道普及率を誇り、温暖な気候に恵まれた金魚と造船の町である長洲町は、製造業をはじめとした多くの雇用の場があり、近年、活性化している農水産業においても更なる発展の可能性を秘めており、「永く住む」には最適な町です。

### Ⅲ 基本理念及び総合戦略の視点

#### 1 基本理念

第1期町総合戦略では、ひとを“金魚”に、町や行政区等のエリアを“金魚の水槽”に例え、様々な色や形をした金魚が、安全・安心な、住みよい個性ある金魚の水槽で生まれ、みんなに見守られながら生き生きと育つことができるように、また、外から移り住み地域に溶け込んで楽しく暮らすことができるように計画を整理し、施策を進めてきました。

このことから、第1期町総合戦略の基本理念を『住んでよし、働いてよし、ギョギョっと感動！永く住みたい、金魚の町“ながす”』と位置づけました。

第2期町総合戦略においても、この基本理念に基づき、各種施策を展開し、『金魚の町“ながす”』を全国にPRするとともに、金魚を通じて町民がお互いの絆を深めながら郷土愛を高め、自信と誇りに満ちた町を築きます。

#### 《総合戦略の基本理念》

住んでよし、働いてよし、

ギョギョっと感動！

永く住みたい、金魚のまち“ながす”

#### 2 総合戦略の視点

総合戦略の基本理念を踏まえ、新たな視点を加えた以下の視点に基づき各種施策を整理します。

##### 視点1：長洲町の産業を元気にし、「稼げるまちづくり」を推進する

～産業の活性化を目指す～

長洲町は昼間人口が夜間人口を上回る町です。これは周辺自治体から就労を目的とした流入があるため、今後も“働く場がある長洲町”を維持するために、さらなる産業の活性化を目指します。

また、まちに賑わいと活力を生み出し民間投資の喚起や雇用の増加につながるために地域の価値を高め、「稼げるまちづくり」を推進します。

##### 視点2：長洲町に住む人・移ってくる人を増やす

～人口の社会増を目指す～

長洲町には大手企業の工場や事業所等があることから、近隣自治体からの就

業による流入も多いため、若い世代の人たちが結婚し、その後、長洲町に住みたいと感じられるような環境づくりを目指し、“町外への流出を抑え、かつ、流入を増やす”ことを第一に一体的に取り組みます。

### **視点3：長洲町で子どもを産み育てる人を増やす**

～子育て環境の向上を目指す～

長洲町は、緑に囲まれ、海に面した自然豊かな町です。JR長洲駅から熊本都市圏まで約30分の距離にあり、通勤・通学・買い物等も便利な町です。こうした環境や立地性を活かし、長洲町で安心して子どもを産み育てることができる環境を充実させ、子どもを産み育てる人を増やします。

### **視点4：定住人口に加え、関係人口を増やす**

～長洲町との新たな関係を築き、今の関係をさらに深めようとする町外者を増やす～

これまで、「金魚と鯉の郷広場」での観光イベントや、町の伝統行事等を通じて交流人口の拡大を図ってきました。この繋がりを継続・拡大しながら、様々な形で町とのつながりを築き、町を支える人々を増やし、町の応援団を増やしていけるよう各種施策に取り組みます。

## IV 施策実施における基本方針

### 1 「まち・ひと・しごと創生」5原則

国では、第1期となるまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的視点を引き続き展開するとともに、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における施策の方向性等を踏まえて政策5原則が見直されました。

#### (1) 自立性

地方公共団体・民間事業者・個人等の自立に繋がるような施策に取り組みます。

#### (2) 将来性

一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題を解決できる施策に積極的に取り組みます。

#### (3) 地域性

地域の強みや魅力を活かし、地域の実態に合った施策を自主的かつ主体的に、前向きに取り組むことができる施策に重点的に取り組みます。

#### (4) 総合性

施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組みます。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組みます。

#### (5) 結果重視

施策の結果を重視するため、明確なPDCAサイクルの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組みます。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行います。

### 2 PDCAサイクルの確立

町総合戦略では、施策の進捗及び効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標（KPI））を設定し、PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）により検証する仕組みを確立し、更なる施策の充実・展開、必要な改善等につなげます。

### 3 総合戦略の検証

この町総合戦略は、絶えず変化する経済・社会の実態に即応していくため、国の詳細な経済分析を加味するなど、随時検証して必要な見直しを行い、効果的な取組みを進めます。

## V 基本目標

### 目標1：しごとをつくり、安心して働けるようにする

安心して働くことができるためには、「しごと」がなければできません。夢を持って働くことができる「しごと」が「ひと」を呼び、逆に「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するために、多くの企業が立地する工業都市として、また、これまで育まれてきた農水産業を中心に地域資源を活かした「しごと」をつくります。

### 目標2：町とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる

人口減少を抑制するためには、人口の流入を促進し、流出を抑制することが重要です。町の魅力を高め、誰もが訪れたいくなるような魅力あるまちづくりを推進するとともに、多くの人と町とのつながりを築き、「まち」に多くの「ひと」を呼び込みます。

### 目標3：安心して、結婚、出産、子育てができ、魅力ある教育を受けられるようにする

人口を維持していくためには、多くの子どもが生まれることが重要であり、安心して結婚し、子どもを産み、育てる環境を整備する必要があります。

そのため、安心して、結婚・出産・子育てができる地域社会をつくり、すべての子どもたちを健全に育てることができるよう切れ目ない支援を行います。

さらに、魅力ある教育を受けられるよう教育環境を整備し、教育力の向上を目指します。

### 目標4：安全・安心に暮らすことができる、魅力的なまちをつくる

子どもから高齢者まで誰もが、安全・安心かつ、快適に生活できるように生活基盤の整備や地域防災力の強化を図っていきます。

また、誰もが生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むことができるよう、スポーツ・健康が融合した魅力的なまちづくりを推進します。

## VI 第2期町総合戦略の具体的な取組み

### 1 しごとをつくり、安心して働けるようにする

#### 【数値目標】

町内企業における新規雇用者数 750人 (R2～R6) を目指す

#### (1) 町内事業者等の活性化

雇用を創出することは、町の活力を生み出し、町の持続的な発展を可能とするものです。

誘致企業による工場増設や設備投資が近年進められており、今後も町の経済を牽引する造船・サッシ等の製造業関連の生産強化に対する支援を行い、町内経済の活性化を図り、雇用の確保を目指します。

さらに、中小事業者においても生産性の向上や収益力の強化を図るため、町商工会と連携し、各種支援を行うとともに、創業・起業支援や事業承継の推進に取り組めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値
企業誘致件数 (増設・新規)	12件 (H27～R1)	15件 (R2～R6)

#### 《具体的な施策》

- 経済活性化に向けた町内企業への支援及び新たな誘致
- 中小事業者の生産性向上と収益力強化

#### (2) 地域の資源を活かした農水産業の振興

本町への企業進出が始まる昭和45年以前は、主に農水産業が経済の発展を支えてきました。

近年では、経営者などが減少するも生産高は増加しており、町内の農水産業に関する潜在能力は高く、豊かな自然に恵まれた有明海や内陸地での農地で育まれる多様な農水産物を活かし、商品化やブランド化による販路拡大を図り、一次産業の活性化を目指します。

また、生産者、地域、事業者といった多種多様な業種を超えた連携を図り、ICT化による生産・漁獲高向上、そして高付加価値の農水産物の産出を目指すとともに、6次産業化の推進に向け、民間事業者との連携を深めます。

さらに、関係機関との連携を図りながら、経営発展の可能性の拡大・経営継承を円滑に進めるためにも農水産業の法人化を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値
農水産業における新規就業者数	5経営体 (H27～R1)	5経営体 (R2～R6)
農水産物の商品化数	—	2商品 (R2～R6)

《具体的な施策》

- 農業・漁業の競争力強化
- ブランド力を高める農水産業の持続的な発展

(3) 安心して働ける環境づくり

働き手の不足が心配される中、女性、若者、高齢者、障がい者、外国人が社会で活躍できるよう、事業者との連携により、安心して働きやすい魅力的な就業環境の整備を目指します。

また、現在働いていない人の掘り起こしや各事業者とのマッチングを行い、国の制度・支援などを活用しながら町内事業所への就職を促進します。

重要業績評価指標(K P I)	現状値	目標値
外国人相談窓口の開設	-	R3 年度開設
町内企業への就職者数	152 人 (R2~R6)	130 人 (R2~R6)

《具体的な施策》

- 外国人労働者等の環境整備
- 各種セミナー開催による就職マッチング

(4) 伝統産業「金魚」の再生

「金魚」は、本町のブランドとして誰もが認めているところです。しかし、生産者の高齢化や後継者不足により金魚の生産量が減少、衰退しており、伝統産業である金魚養殖の継続が危惧されています。そのため、地域の関係者をはじめ、他地域における関係者との連携を図り、品種改良や金魚のエサの開発等を行い生産者の生産販売の拡大を図ります。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
金魚養殖業新規就業者数	3 経営体 (H27~R1)	3 経営体 (R2~R6)

《具体的な施策》

- 金魚養殖業の活性化

## 2 町とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる

### 【数値目標】

R2 から R6 までの 5 年間の人口社会増を 1 2 5 人にする

#### (1) 都市圏等からの移住の促進

町内への移住・定住希望者に対して、町の魅力や暮らしに必要な情報をパンフレットや町ホームページ、移住定住情報サイトを活用して広く発信し、東京都・大阪府にある熊本県移住相談窓口等と連携し、移住・定住のきめ細やかな支援を行います。特に、居住環境や教育環境、子育て支援の充実などを広く PR し、子育て世代が住みたくなるような魅力あるまちづくりに取り組みます。

また、適切な居住環境を確保するため、活用されていない空家等の情報提供・マッチング支援を行い、人の流れをつくる環境を創出し定住促進を図ります。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
町外からの転入者数	3,442 人 (H27~R1)	4,150 人 (R2~R6)
空家・空地バンク登録件数	6 件 (H29~R1)	30 件 (R2~R6)

#### 《具体的な施策》

- 地域の特性や魅力発信による移住の推進
- 空家等の利活用及び老朽空家の対策

#### (2) 若者等の町への定着の推進

地域の産業や文化に理解を深めるため、幼少期からの「ふるさと教育」等を実施することにより、地域に誇りを持つ人材の育成を推進し、若者等の町への定着を推進します。

また、若い世代が、地域への課題意識や貢献意識を持って、将来における新しい地域価値を創造し、地域を支えることができる人材の育成に向け、地域を知り親しむ機会の創出に取り組みます。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
長洲町が好きと答えた児童の割合	-	100% (R6)

#### 《具体的な施策》

- 地域住民との交流を通じた郷土愛の育成

#### (3) 関係人口の創出・拡大

これまで、「金魚」を長洲ブランドとして位置づけ、「金魚と鯉の郷広場」を核とした観光振興への取組みや地域の伝統行事である「的ばかい」などの各種イベントへの参加等による交流人口の拡大を図ってきました。

今後、「金魚」を通じた関係者や町に興味を持つ方々をはじめ、町出身の方々などとの継続的な交流を通じ、様々な形で町を支える人々を関係人口として捉え、町とのつながりを構築し、地域の活性化を図ります。

また、町内には多くの誘致企業等が立地していることから、本社と町とのつながりを更に強化し、町の応援団として関係を深めていきます。

重要業績評価指標（K P I）	現状値	目標値
金魚と鯉の郷広場来場者数	1,488,154人 (H27～R1)	1,500,000人 (R2～R6)
ふるさと納税の単年度寄附額	4.6億円 (R1)	5億円 (R6)

《具体的な施策》

- 金魚を核とした観光産業の活性化
- ふるさと納税の推進

（４）自治体間の連携を推進

生活圏となる有明圏域における構成市町間の連携を図り、観光や教育、防災面での連携をはじめ、関係市町における婚活事業などの各事業を実施することで、観光・産業振興を図り、地域の魅力向上に取り組みます。

また、関係自治体と幅広い分野で相互に連携協力することにより、地域交流を促進します。

重要業績評価指標（K P I）	現状値	目標値
有明圏域定住自立圏における取組項目数	15項目 (R1)	16項目 (R6)
荒尾・玉名地域結婚サポートセンター会員間における成婚組数	45組 (H27～R1)	20組 (R2～R6)

《具体的な施策》

- 有明圏域定住自立圏における関係市町との連携
- 関係市町との連携による婚活事業の実施

### 3 安心して、結婚、出産、子育てができ、魅力ある教育を受けられるようにする

#### 【数値目標】

年間における出生者数 100人 (R2) → 120人 (R6)

#### (1) 安心して子どもを産み育てられる温かい社会づくり

核家族化の進行で、子育てに係るニーズの多様化により、妊娠から出産、子育てまで、切れ目のないきめ細かな支援が必要とされています。

そのため、子どもに関する様々な相談に対応する子育て世代総合支援センターにおいて、関係機関と連携しながら子どもと子育て家庭を支える体制を整えます。

また、将来を担う町の宝である子どもたちが健やかに成長できるよう、切れ目のないきめ細かな支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望が持てる社会の実現を目指します。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
子育て環境や支援への満足度	59% (R1)	65% (R6)
子育てに関する相談対応件数	3,366件 (H29~R1)	9,000件 (R2~R6)

#### 《具体的な施策》

○妊娠期から子育て期における切れ目のない支援の充実

#### (2) 夢に向かい確かな学力、豊かな人間性を育む

児童、生徒を取り巻く環境が日々変化している中、「確かな学力」と「豊かな人間性」、「健康・体力・感性」を育む教育の創造を図るため、長洲町の特色を活かした魅力ある教育を実施します。特に、英語指導員や地域団体等との連携による卓越した英語教育を実施し、感性豊かな子どもの育成を目指します。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
学校が楽しいと答えた児童の割合	92% (R1)	100% (R6)
学校が楽しいと答えた生徒の割合	84% (R1)	100% (R6)

#### 《具体的な施策》

○子どもたちの夢を育て、社会に貢献できる人材育成

○感性を育む教育の実施

○特色ある教育の実施

### (3) 男女がともに活躍・参画する社会づくり

男女がともに互いの人権を尊重し、助け合いながら活躍する社会をつくるため、育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、仕事と生活の調和を図り、子育てをしながら働くことができる職場環境の整備に取り組みます。

また、仕事と生活の調和に関する企業等への理解を深めるため、経営者や管理者等への啓発を図ります。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
審議会等における女性登用率	36.0% (R1)	40.0% (R6)

《具体的な施策》

○すべての女性が輝く地域づくり

## 4 安全・安心に暮らすことができる、魅力的なまちをつくる

### 【数値目標】

町民アンケートにおける町民が「住みやすい」と答えた割合

80% (R1) → 85% (R6)

### (1) 快適に生活できるまちの実現

地域住民にとって、「住んでよし」と思えるような快適な住環境となるように、道路や公共交通をはじめとする生活基盤の整備を図り、利便性の高い効率的で暮らしやすいまちを目指します。

また、インフラ整備において、都市計画道路の整備等、自然災害に強い持続可能なまちづくりの実現を目指します。

さらに、子どもたちへの交通安全教育をはじめ、地域内の防犯カメラ設置により地域の安全を強化し住民の安心を支えます。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
住宅新築戸数	268 戸 (H27~R1)	300 戸 (R2~R6)
きんぎょタクシー利用者数	91,752 人 (H27~R1)	110,000 人 (R2~R6)
町内における刑法犯の認知件数	38 件 (R1)	30 件 (R6)

《具体的な施策》

○定住化に向けた宅地開発等

○道路等整備

- 公共交通の確保と利便性の向上
- 防犯・交通安全対策

### (2) スポーツ・健康が融合したまちづくりの推進

少子高齢化が進行し、町民の10人に3人が65歳以上の高齢者となっている今日、高齢者や障がい者が安心して、いきいきと暮らせるまちをつくるため、福祉、保健、介護、医療が連携した福祉環境の整備を図り、さらなる福祉、介護サービスの充実に取り組みます。

また、地域に整備された介護予防拠点施設を中心に各種教室や講座を実施し、健康づくりや地域のつながりの強化に努め、生涯にわたって元気に過ごせる健康なまちづくりを推進します。

町内の多様な主体が一体となってスポーツによる地域活性化に取り組み、健康増進や疾病予防に向けた取組みを官民が連携して推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値
介護認定率の割合	16.5% (R1)	17.6% (R6)
元気あっぷリーダー養成者数	77人 (H28~R1)	50人 (R2~R6)
特定健診受診率	42.6% (H30)	51% (R6)
総合スポーツセンターの利用者数	763,578人 (H27~R1)	700,000人 (R2~R6)

#### 《具体的な施策》

- みんなで支え合う福祉のまちの実現
- 健康増進が期待できるまちの実現
- スポーツを活用した地域の活性化

### (3) 国土強靱化との連携による地域活力の強化

人命を守り、致命的な被害を負わない強さを備え、速やかに回復するという国土強靱化の考えのもと、町民の安全・安心な生活を守るため、防災の原点となる、自助、共助及び公助の取組みを適切に組み合わせ、災害時の初動体制や情報管理、地域住民で組織する自主防災組織等との連携体制を構築し安全安心なまちづくりを推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値
自主防災組織地区防災計画策定率	3% (R1)	100% (R6)
火災発生件数 (住宅火災)	8件 (R1)	0件 (R6)

#### 《具体的な施策》

- 自助、共助による地域防災力の強化・向上
- 消防団活動の充実

#### (4) 環境に配慮したまち

豊穰の海である有明海をはじめとする長洲町の自然環境を保全し、次世代へと引き継いでいくため、町民、事業者、行政が連携し、環境にやさしい循環型社会の構築を目指します。また、生活環境の改善や水質を保全し、豊かな自然環境を守る下水道のあるまちづくりを推進します。

さらに、県産材を活用したものづくり事業などを開催することで、木育の推進を図り、町民に対して広く環境への意識啓発に取り組みます。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
町内の年間ごみ処理量	4,084t (R1)	4,000t (R6)
水道の有収率	84.5% (R1)	85.5% (R6)
下水道の水洗化率	91.6% (R1)	94.2% (R6)

##### 《具体的な施策》

- 環境にやさしいまちづくり
- 上下水道整備の充実

## 5 横断的な目標 多様な人材の活用を推進

#### (1) 誰もが居場所と役割を持つ地域社会

地域に関わる一人ひとりが様々な人々と交流しながら参画できる環境をつくり、地域の担い手が生まれるきっかけづくりに取り組みます。

地域における自分の役割を見出し、活躍の場所を持つ人が増えていくことが新たな地域づくりの発想につながり、ひいては地域課題解決の実現が期待できます。

重要業績評価指標 (K P I)	現状値	目標値
長洲町人材バンク登録者数	100人 (H28～R1)	25人 (R2～R6)

##### 《具体的な施策》

- 住民が輝く地域の創生

#### (2) 地域における多文化共生の推進

外国人の流入流出の多い長洲町において、地域における住民と外国人との共生は欠かせない部分です。また、「この町に住んでよかった」、「また来たい」と思ってもらえるためには、個々の地域づくりが大切になります。

そこで、生活におけるさまざまな不安や悩みを相談できる外国人専門窓口を

設置することで、外国人居住者への支援を行います。

重要業績評価指標（K P I）	現状値	目標値
連絡協議会の開催数	-	10回（R2～R6）

《具体的な施策》

○外国人の地域との共生推進

## **Ⅶ 第2期町総合戦略の実現に向けて**

### **1 推進体制**

町総合戦略の実現に向けては、産官学金労等の関係者からなる「長洲町地方創生協議会」及び長洲町議会において、地方創生の実現に向け広く関係者の意見を求め、情報の共有を図りながら協働して各種施策を推進します。

### **2 施策の連携と総合的な展開**

総合戦略における施策を進めるうえで、各種施策の連携を図りながら、総合的・横断的に取り組んでいきます。また、人口減少・超高齢化社会というピンチをチャンスに変えていくために、“変革・挑戦”の精神で、「住民の力」、「民間の力」、「行政の力」の総力を挙げて取組み、長洲町の素晴らしさを次の世代に引き継いでいくため総合的に展開します。

### **3 交付金等の活用**

この総合戦略の策定及び実施にあたっては、財源等の確保を図るため、国・県等の補助金等を活用して事業の実施に取り組みます。